

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋海神		
所在地	千葉県船橋市海神5-29-20		
自己評価作成日	平成29年3月9日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の生活歴に合わせ、入居者様一人一人に合わせた個別支援を中心に行い、日々の体操・散歩・お買い物など日常生活動作の中での筋力低下防止にも努めています。またお互いを支え合い・助け合い・信頼関係を築いていける様コミュニケーションを多く図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京成海神駅から徒歩5分の住宅街の一角の広い敷地にイベントにも使える広い駐車場と緑地や家庭菜園もある。日当たりの良いゆったりと過ごせるリビングと居室、相談室や職員休憩室と入居者にも職員にも配慮した設計の新築の3年目のホームである。年間研修計画を立て毎月研修を実施し、職員に報告書を提出させる等職員のスキル向上に力を入れて取り組んでいる。新しいホーム長の下、「入居者一人ひとりとの会話を大切にし思いを汲み取り信頼関係を築き、互いに支え合い・助け合い、生き活きとした当たり前の生活が出来るよう」個別の自立支援にチームとして取り組んでいくことが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の夕礼の申し送りや会議での運営理念の唱和を行い、把握・理解しケアの統一化に努めています。	法人の「その人らしい」から始まる3つの理念と「普通の生活を当たり前」などの credo をユニット会議や全体会議で唱和し共有を図っている。新ホーム長の下、特に「入居者一人ひとりと会話をし思いを汲み取り、生き活きとした生活のできる」介護を目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーへの買い物は入居者様と一緒に地域交流を行い、また散歩の際などは近隣の方への挨拶を行い顔なじみになっていただく。	近隣のスーパーやコンビニに買物に行ったり、近くの公園に散歩に行き近隣の方やマンションの親子などと顔なじみになっている。近隣の方が歌や踊りのボランティアに来てくれたり、庭や畑の手入れをしてきている。	町内会の行事を把握し参加したり、近隣の保育園との交流もしていきたいとのことであり、更に地域とのつき合いの輪を広げていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	千葉周辺の同法人の事業所との協力体制のもと、地域の方へ向けて認知症を理解して頂けるよう勉強会を開催しています。その中で支援方法や事例を通して認知症の周辺症状が緩和した内容を発表しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のケアの内容や日頃の様子をご家族様と共有し、今後どのようなケアに努めていくかを話し合っています。	家族会を兼ねて家族のみが参加して、入居者の状況、職員状況、行事や事故報告と今後の運営方針などを議題として、開催している。	本来の会議の趣旨の則り、行政や地域の方等に声掛けし、年間予定を事前にお知らせする等、2ヶ月に一度定期的に開催できるよう取り組むことを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生委員・地域包括の方たちに支援の取り組み方や助言を頂き情報を交換している。	市の指導監査課担当者とは届け出書類等の件で相談し助言を頂いている。地域包括支援センターの方には今後運営推進会議に出て頂く等、協力関係を築くよう取り組んでいくとのことである。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを各ユニットに設置し高い意識を保つ様にしており、会議の中でも研修を取り入れている。	高齢者虐待と身体拘束「ゼロ」に向けての研修を3ヶ月に一度実施している。「虐待・不適切ケアと身体拘束」チェックシートを職員輪番で記入し、2ヶ月に一度各ユニットの状況を本部に提出している。職員の理解と意識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高い意識を保つことによって職員同士も言葉使いや話し合う内容に気をつけ虐待に繋がらない環境を作る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターとの話し合いをしご家族様・ご利用者様の想いの実現について話し合っている。また、成年後見人制度の活用も行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホーム保管用とご家族様用、各1部ずつ作成。 説明し同意を頂いている、またご質問へもお答えしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話にて管理者のみならず、職員からも直接日頃の様子をお伝えしています。	家族会を初め、敬老会やクリスマス会等家族参加の行事を多く実施し、家族が意見や要望を言い易くしている。また、入居者毎の面会簿を設置し家族の来訪も促している。毎年の法人の満足度調査や外部評価の家族アンケート等も含め多くの意見や要望が聞けている。役割を与えて欲しい等の要望を全体会議等で検討し運営に反映させるとともに、職員間で共有するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の実施。 毎月、全体会議・ユニット会議の開催。	全体会議で職員から出されたシフトによる業務内容の提案等を運営に反映させている。個人面談で愚痴も含めて職員が話し易い雰囲気を作るとともに、日々共にケアする中での会話から要望等を聞くようにしている。法人の職員アンケートもある。年間研修計画を立て、全体会議の場で計画的に研修を実施している。職員に内容・成果・課題と総評などを報告書で提出させるなど、職員のスキル向上に力を入れて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員と定期的な面談、また日頃から話し合いを行い、悩みを聞く機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外問わず本人に合った研修を実施したり紹介し行ってもらうように進めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流活動やGH協議会に参加し情報共有を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>会議を通してアセスメント・ケアプランに目を通して頂き、現状を把握し、各階ユニット会議にて入居者様の関係に努める。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご本人様・ご家族様のご要望を聴き、その後も随時連絡を取り合い、状況報告やケアの方向性を伝えている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>話をよく聞き必要な支援を見極めています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人様のご要望を取り入れた中に、残存機能を把握した上で、日常生活や共同生活の場において、他入居者様同士の懸け橋になるように努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人・ご家族・地域・施設が一緒になり、絆を保てるように悩みを共に考える。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>一人一人に合った個別レクリエーションや馴染みのある場所に行ったり、今までの関係を崩さないように、ホームに直接、または電話で連絡取りあえる環境が出来ている。</p>	<p>家族や親せきの他、踊りのサークルの仲間や友人が訪ねて来る。散歩時に自宅に行ったり、散髪に行く、スイミングプールに毎週通う。毎週自宅に外出したり、お正月に帰宅し外泊する。家族と温泉旅行に行く。電話の取り次や手紙のやり取りを手伝う等、馴染みの関係をできるだけ長く続けていけるような支援に取り組んでいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>孤立する事の無いように、職員がレクリエーションや会話の懸け橋をし、共同生活での空間を共有し支え合えるような支援に努める。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様の許可がおりている方には別施設へ訪問している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議にて個々の希望や意向を再確認し個別ケアに努める。ご本人やご家族の想いの実現を本人本位にて検討、実施している。	既に入居している人については、日々共に暮らす中でその人の思いや意向の把握に努め、思いが表出できない場合、表情やしぐさなどを良く観察し、状況やケア内容と共に個人記録に記載し、職員みんなで検討してその人に合ったケアプランに繋げている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に今までの生活歴やご様子をお聞きし、一人一人の居場所やその人らしさを追求している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活リズムを把握してその日その日の感情や身体能力。また、本人の希望に合わせた過ごし方を提案している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医療機関と話し合い、その方に合った介護計画を作成している。	ユニット会議の場で、日々記載の個人記録等をもとにして、入居者本人・家族・医師・看護師の希望や意見を取り入れ、プランを作成している。3か月毎にモニタリングしプラン変更を行い、これに先立ってケアプラン作成者がタキ台として作成した案を全員でカンファレンスし、不要なプランは外し新たなプランを加え、この新プランを一か月ほど実施してみて良ければそのプランを継続実施するようにしている。	職員が常に介護計画を目にし、プランを意識したケアができるように、「介護計画第2表」を「個人記録(日報)」等、毎日記入する資料に挟み込む等の工夫を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、勤務交替時の夕礼にて入居者様の状況の報告やケア内容にて情報を共有している。出勤者は勤務交替時に関わらず、情報共有を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方、一人一人に合わせて長時間の散歩や美容など個々のニーズに合わせて支援サービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪や買い物了近所のスーパーに行き、今までの暮らしを継続し地域との共存に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ドクターランド船橋(イオン船橋内)の往診医と些細な点でも連絡を取り合っている。その日の受診者でなくても医師と相談し診て頂くなど臨機応変に対応している。	入居前からのかかりつけ医で受診する入居者もあり、家族対応受診となっている。その場合、家族から受診情報を聞いてケア日報に記録している。殆どの入居者は提携医療機関から月2回の往診を受けている。往診表に受診記録と共に申し送り事項を必要に応じて記入し、職員間の情報共有が図られている。当該医療機関とは24時間オンコール体制をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異変には些細な事でも情報共有を行っており、早期発見や再発防止に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一週間に一回以上の面会を行い、現状の把握や早期退院、その後の支援に関わる事を病院側と話し合いを設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にかかる指針をご家族へ説明し、署名・捺印を頂き、ホームの状況を含めて今後の方向性を話し合っている。又、状況や段階に応じて医療従事者、ご家族を交えて話し合いが出来る様に努めている。	入居契約時に「重症化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」で良く説明し了解を得ており、当ホームでの看取り希望には、入居者の状態・段階ごとに家族・医師・ホームで良く相談し対応するようにしている。この1年間で2名の看取り経験している。看取りについての研修を定期的に実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに緊急対応マニュアルを設置し、常に高い意識を保つようにしている。また、定期的に緊急時の対応を研修として取り入れられている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練。昼・夜の別々の防災・災害の訓練を実施している。 年に1回以上の消防立ち合いにて実施。	防災避難訓練を年2回、昼・夜間想定で実施している。「消防組織編成表」や「緊急連絡網」も整備され、「防火用自主点検票」にて定期的な点検が行われている。また災害に備えての水・食料の備蓄もなされている。	避難訓練実施後の「実施記録」と「反省とその課題」の記録を取って次回の訓練に活かすことと、職員の少なくなる夜間想定訓練の頻度を多くし、全ての夜勤当事者の習熟度を上げることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に職員にバラつきがないように個人に合わせて対応しているが、ご利用者様と職員の信頼関係を含めて尊重し声掛けを行っている。	先ず入居者と職員の信頼関係を築き、その人の生活歴や性格を知った上で声掛けをしている。呼びかけは家族からの要望も入れ、時に「ちゃん付け」することもある。法人作成の「不適切なケア」チェックシートは口調・態度・無理強いしていないが等人格尊重とプライバシー保護に関するチェック項目もあり、極めて有用性の高いシートとなっている。また、不適切な発言があった時はその場で職員同士で注意し合うようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を表せるように、職員は決める事のように話を持ちかけない。意向を表せるような声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を含め、その人らしいを実現出来る様に入浴や日々の過ごし方にそえるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が衣類を選べる方はご本人で決めて頂く。また、季節や気候に合わせて職員からも提案という形で支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗い・食器拭きなど個々の身体機能に合わせて職員と一緒に支援している。	食前はテレビ画面を見ながらの嚥下体操をしたり、できる入居者は積極的に盛り付けなどを手伝っている。調理担当者の休曜日には希望のメニューの食材を買ってきたり、冷蔵庫の食材を使って好みの料理を作って楽しんでいる。また駐車でバーベキューをしたり、季節毎のクリスマス会・おせち等の行事食を楽しんだり、希望に応じて寿司の出前をとったり、回転すしやハンバーガー店に出掛けたりと、食を楽しむための企画実行は枚挙にいとまがない。調査訪問当日、1Fは誕生会のケーキ作り、2Fはおやつホットケーキ作りで熱中していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一日を通して一目でわかるような書式を活用している。また、食事形態や水分形態もその方の現状に合わせて提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って頂いている。ご利用者によっては訪問歯科が口腔内チェック・清掃を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を確認しトイレ誘導を実施している。また、パッド・リハパン使用者も用途目的にて使用している。	適度の高さに手すりを設置し、便座の背凭れや可動式手すりや呼び鈴も設置し、など入居者の安全と安定感に配慮している。排泄の自立支援にむけ、夫々の排泄間隔を良く把握し、トイレへいざなっている、トイレ介助の必要な入居者もあり、適時支援を行っている。必要に応じてポータブルトイレを使用する事もある。トイレと浴室が1ドアで移動可能となっていて、失敗時には入居者・職員共に対応し易い設計が施されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせての散歩や、体操を行っている。また、下剤に関しても一人一人に合わせた、タイミングや量を設定している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面を考慮し代替の時間設定はしているが、今までの生活歴に合わせて入浴できるように職員で見守り方法やリスクについて話し合い、希望に沿えるように環境を整えている。	ホームとしての基本的な入浴スケジュールはあるが、希望に対して柔軟に対応・支援している。曜日は決めておらず、朝の入浴希望や毎日入浴の希望にも対応している。入浴拒否には、タイミングを見計らったり職員交代で対応したりしている。無理強いはいしない。自分のシャンプー・リンスにこだわる人もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅で使用していた布団を持って来て頂いたり、冷暖房の調節を含めて快適に休息できる環境作りに努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を各フロアに設置し常に意識し確認出来る様にしている。また、薬剤師に相談できる環境を作るように努める。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の要望や身体能力に合わせて、また、身体能力にて難しいと判断した場合でも楽しめるようなレクリエーションの提供。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置もあるが計画書におこし、個々の希望、または個別レクとして行えるように工夫している。	天気が良ければ日々散歩を行うようにしている。近くの公園までの往復とか、コンビニへの買物がてらの外出や近隣の店までを散歩コースにしている人もいる。また、家族の協力で3回/週の散歩を行っている例もある。ほかには花見や稲毛海岸・葛西臨海公園・水族館へのドライブなど頻繁に実施している。更に法人開催の合唱コンクールや合同運動会への参加等さまざまな外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物にて支払いが可能な方は買い物の際には金銭の支払いをご本人にして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話対応できる時間帯を把握しつつ、ご本人には自由に電話や手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下はやわらかい色の電色を使用しており、場所に合った照明になっている。廊下には飾りつけなどがしてある。	不安なく安心して過ごせるよう、華美になったり明る過ぎないよう気を付けている。空調・加湿器で湿度が程良く管理され、壁面には習字や貼り絵・塗り絵など入居者の作品とイベント時の写真が適度な間隔で貼付されている。職員との共同作品：雪の結晶と紅葉の貼り絵は圧巻である。季節感と日時を感じられるよう毎日、暦を使ってのお話や、今日は　　の日などの説明をしている。ホーム所在地名にちなみ、海をコンセプトにした名札を作成している。窓の外にはウッドデッキや花壇・菜園もあり、お茶をしたり花や野菜の栽培の楽しみも持てる素敵な共有空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席の場所を決めている訳ではありませんが、ご利用者自身で居場所を決めている。また、レクリエーションの際は席に関係なく職員より全体での居場所づくりを工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものや馴染みの物を居室に置き使用し居心地の良い環境作りに努めている。	照明器具・空調・クローゼット以外の家具調度品は各自自由に持ち込めるので、入居者の馴染みのものや思い入れの強い品物が持ち込まれている。入居前に自宅の様子や調度品の置き方などを確認してベッドの位置などのアイデアを出すこともある。整理ダンスやテレビ・家族との記念写真・人形・籐椅子など様々である。直接床に布団を敷いている部屋もあればクッションマットの部屋もある。毎朝の掃除や定期的なシーツ交換等で常に清潔に保たれた居室になっている。居室は施設も可能であり、実際に施設している入居者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がフロア環境を常に意識し歩行の妨げにならない様、物品の配置に努めている。		